

福島浜通りの復興と地域づくり活動 ～東日本大震災と原発事故を乗り越えて～

平成28年 8月



NPO法人ハッピーロードネット
理事長 西本 由美子

NPO法人ハッピーロードネットのご紹介

◇活動の目的

福島県浜通り地域の「まち」「みち」「地域づくり」に関するコーディネートや人的ネットワークづくり、地域の未来を担う人材育成などの事業を行い、楽しく住みやすい地域社会の実現に向けて活動しています。

- ・平成17年 交通安全母の会から「地域づくり団体」を結成、活動を開始
- ・平成20年 「特定非営利活動法人 ハッピーロードネット」設立

◇主な活動

(震災前)

- ・「こどもといっしょに未来のまちを考えるフォーラム」の開催
- ・国道6号ほか「ゴミ拾いボランティア」活動、「植栽・維持管理」活動の実施
- ・Jヴィレッジの植栽・管理や韓国ナショナルトレセンU14との交流活動
- ・常磐道(楡葉PA)「高校生といっしょに設計懇談会」の実施・支援活動
- ・「U-20が未来をつくるハイスクールサミットin東北」の開催
- ・福島県内や三重、岩手など各自治体の教育委員会懇談会等の支援 など

(震災後)

- ・東日本大震災による被災者の支援活動
- ・「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」ボランティア植樹(維持管理)活動 など
- ・「福島から世界へ発信する私たちの未来」ハイスクール世界サミットin福島の開催
- ・「みんなでやっぺ！！きれいな6国」国道6号道路清掃ボランティア
- ・浜通りの高校生をベラルーシへ派遣「日本・ベラルーシ友好訪問団2016」

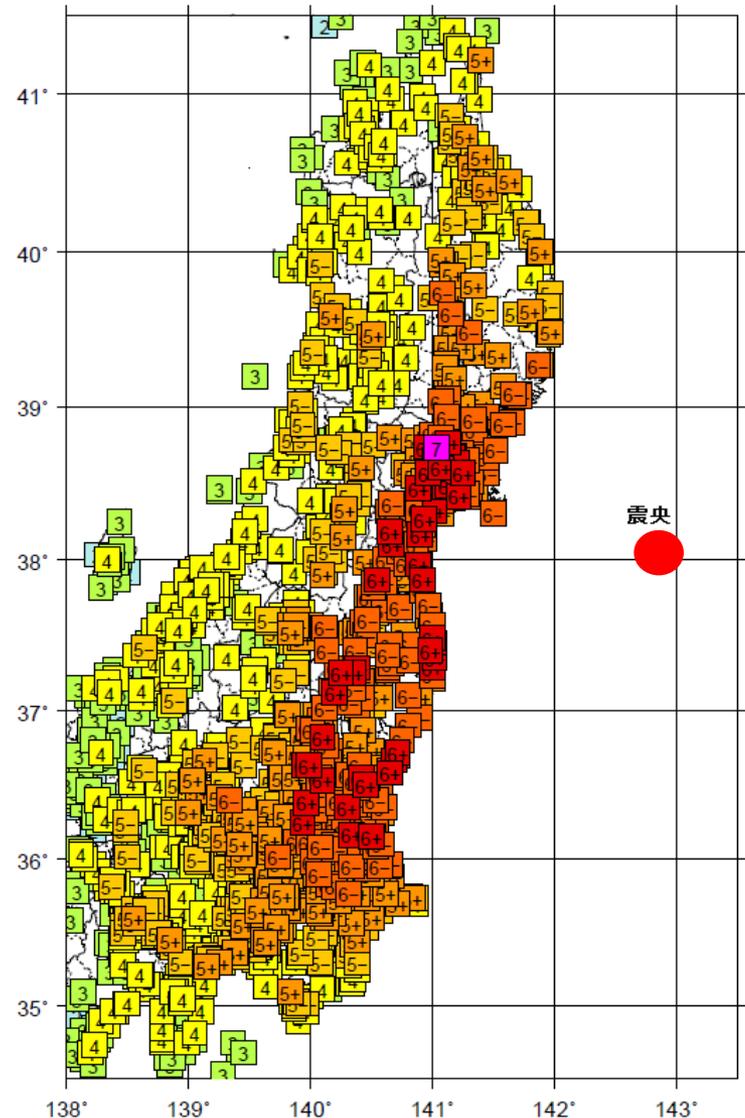
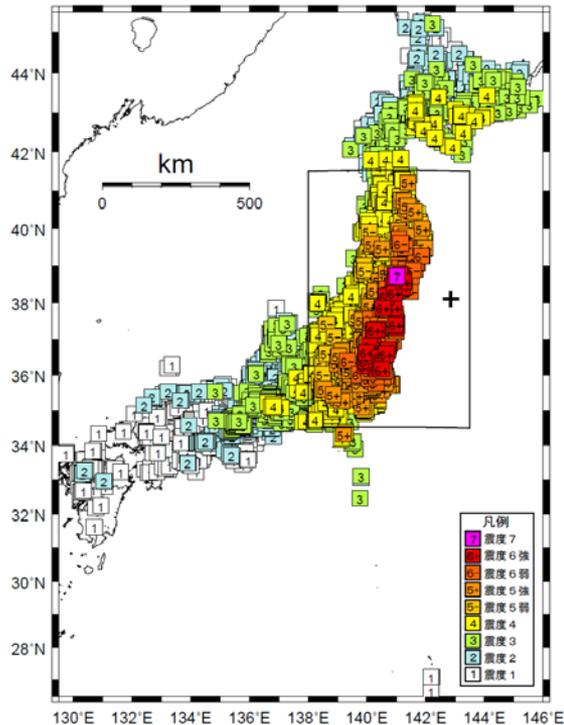
東日本大震災の発生

■ 1,000年に1度といわれる規模の**大地震**と**大きな津波**が発生

平成23年3月11日(金)14時46分

発生場所:北緯38度06.2分、東経142度51.6分、
深さ24km

規模:9.0(モーメントマグニチュード)
最大震度:7



多くの生命と財産を奪った津波



地震・津波の被災状況(H23年3月)

地震による家屋の倒壊



津波により家屋が流出



国道6号の被害(福島県広野町)



津波による漁港の被害



原発事故の状況 (H23年3月)

(写真:東京電力)

福島第一原子力発電所



福島第一原子力発電所 1~4号機



福島第一原子力発電所 3号機



福島第一原子力発電所 4号機注水作業



除染廃棄物の仮置き場(H27現在)

- 除染後の指定廃棄物は、仮置き場に一時保管され、県内の中間貯蔵施設「長期管理施設」等に運搬される。
(平成27年から、仮置き場から中間貯蔵施設への試験運搬が開始されている。)



写真(H28.1月)

- ※・事故によって大気中に放出された放射性物質に汚染された廃棄物のほとんどのものは放射能濃度が低く、一般の廃棄物と同様の方法で安全に処理できる。
- ・一定濃度（1キログラム当たり8,000ベクレル）を超え、環境大臣が指定したものは、指定廃棄物として、国の責任のもと、適切な方法で処理することとなっている。

被災者への支援活動 (震災直後H23.4~5月)

- これまでの人ネットワークにより、全国から支援物資を調達、日本サッカー協会を借りて整理
- (財)日本サッカー協会や協賛企業の協力を得て、**集団避難所へ支援物資を届ける。**
- 子供たちが避難している**サテライト校に、文房具(13トン分)などの支援物資を届ける。**



▲大熊町集団避難所(会津若松市内)
(財)日本サッカー協会 大仁会長(右端)と物資を届ける



▲平成23年5月26日
双葉高校サテライト校
(いわき市)に支援物資を届ける

▼平成23年5月27日
相馬農業高校サテライト校
(南相馬市)
に支援物資を届ける



▲(財)日本サッカー協会を借りて、支援物資を整理



▲平成23年5月30日
福島民友

う。同会は27日までに双葉高のほかにも相双地方の高校へ文房具を届けた。



「ハイスクールサミットin東北」の再開

子供たちに、大人や社会への意見を提言する機会を提供し、子供たちが自主的に社会活動に参加することを目的として、平成18年1月から実施しているフォーラムは、震災後も実施。

- ・平成24年1月20～21日 仙台市で開催 (H23開催延期→ 震災後の再開)
- ・平成24年7月31日～8月1日 仙台市で開催
- ・平成25年8月23～25日 仙台市で開催
- ・平成26年8月8～9日 いわき市で開催 (記念すべき第10回大会を迎えた)



サミットの運営も、人材育成として取り組む

▼磐城高校放送部 インタビュー取材



安倍昭恵 総理大臣夫人に取材

▼現地視察のエスコート



▼サミット進行の最終打ち合わせ



司会は、地元高校生

■OB大学生生活動報告(道の駅プロジェクトチーム)

道の駅ひろの(計画)



東北大学4年日置さん

▼反省会、次回開催に向けての打ち合わせ (H27.12.3)



大会顧問である安倍首相夫人も参加、「ハイスクール世界サミットin福島」の報告会と第2回大会へ向けての打ち合わせを実施。今回の反省点や改善点などを抽出、来年更にグレードアップしたサミットを目指し、様々な意見が出されました。なによりも運営の中心を担う大学生スタッフのとてもしっかりした意見が素晴らしい。(大きな成長)

広野町役場や国土交通省に赴き、現地見学、勉強会、関係者との意見交換をする事ができた。このプロジェクトを通して、自分達の考えが実現する機会をいただいた。「道の駅ひろの」が復興のシンボルとなって、多くの方に双葉郡を知ってもらいたい。



早稲田大学4年藤井さん



「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」活動



- 震災後、希望をなくしつつある福島浜通りの住民に元気と希望を与えるため、『**ふくしま浜街道・桜プロジェクト**』を立ち上げた。
- いわき市から新地町までの国道6号と沿線の県市町村道に桜の苗木を植樹し、福島浜通りの未来を担う子供たちが住民の一人として主体的にこのプロジェクトに関り、「愛するふるさとの復興」を作り上げていく礎となるよう、復興のシンボルとして二万本の桜並木を目指して活動。
- 植樹費用や維持管理(除草・施肥・防除等)は、全国を対象としたオーナーやボランティアを募集しており、誰でも桜1本分の「オーナー」になればメッセージと名前が書かれたプレートが掲げられる。



▲桜の苗木を植栽



▲維持管理するオーナー

「清掃ボランティア活動」の復活(H27.10.10)

- 「みんなでやっぺ!!きれいな6国」ボランティア活動は、東日本大震災の影響により休止していたが、**地域の子供たちからの活動再開の要望を受け、5年ぶりに復活した。**
- いわき・相双地区の高校生が主体となり、青年会議所や住民・企業の方々の協力により、約1,400人が参加、いわき市～新地町間の国道6号沿道の清掃活動を実施した。**



5年ぶり清掃奉仕



国道6号の清掃に汗を流す参加者らー「ツイレヅ」付近

「みんなでやっぺ!!きれいな6国」実行委員会は10日、浜通りの道6号で5年ぶりとなる清掃ボランティアを行い、民約1,400人が古里道の美化に向けてごみ拾いに汗を流した。

清掃ボランティアは、通りを縦断する国道6号環境美化を目的に2000年(平成19年)に始まったが、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故による避難の影響で2010(平成22)年を最後に休止し

NPOやJCCが主導

国道6号、1400人汗流す



【8区間、約50kmを清掃】

放射線の正しい知識と風評被害対策

- 清掃活動に対して、誹謗(ひぼう)中傷の電話やメールなどが寄せられた。
- 必要以上に放射線被曝(ひばく)を恐れる人たちによる、子供たちの思いを踏みにじる中傷行為に胸を痛める。
- 掃除活動した国道6号の区間は、主に子どもたちの通学路となっている箇所。
- 浪江町や富岡町の比較的線量の高い地区は、大人たちの担当エリア。前もって放射線量を計って安全性は確認済み。

◆ 一番の被害は放射線自体よりも、誤った情報による被害。

- 正確な情報が伝わる前に、メディアから個人まで広範囲に誤った知識が広まってしまうと悲劇が起きる。
- 放射線に対する正しい情報提供や教育を充実するなど、正しい知識を持って行動することが大切。



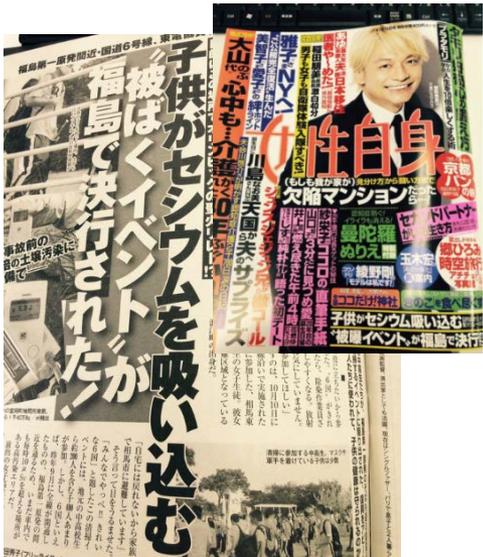
Wedge編集 風評被害対策
ありえない放射線問題をふつづける活動家たち
福島県の被ばく報道はデマだらけ
エセ科学記事の見分け方
あれこれ騒動を聞けば、無理なロジックで被ばくが原因と言い張る人々がいる。
福島に原発事故の被ばくは多く、だから健康被害が拡大と盲信するのは誤りである。だから、
Wedge編集部 大石 隆

福島の低線量被ばくをめぐる報道は、実に嘆かわしい。日本社会の知的劣化と言わざるを得ない状況だ。
活動家が、自らの存在価値を守るために、意図的に倒錯して騒ぎ立てるのはある意味で仕方がない。
問題は、専門家を称する人たちや、報道を名乗る者たちがそれに乗っかって、拡散させることだ。
(Wedge編集部)

※(専門家によると) 例えば、飛行機で成田とニューヨークを搭乗した時の被ばく量は100マイクロシーベルト程度であり、同じレベルの被ばくをするには、福島原発付近の国道6号を50回以上も通過するレベルとのこと。
(100マイクロシーベルト = 胸部レントゲン(約50マイクロシーベルト/回)の2回分相当)

被ばくりスクは、誇張され過ぎていた

【子どもがセシウムを吸い込む“被ばくイベント”が福島で決行された！】『女性自身』11月10日号。「福島の中高生たちが、福島第一原発のそばも通る国道6号線を清掃するイベントに駆り出された。復帰をアピールしたい大人たちに使われて、子どもの健康を、守られるのか。」



【2015.12.20 産経ニュース】

東京電力福島第1原発事故以降、放射線被曝リスクに対し、過剰に恐れる極端な反応もみられ、混乱と迷走を続けてきた。そうした中、米有力紙ウォールストリート・ジャーナル(WSJ)が12月3日付で、「原子力のパラダイムシフト」と題して、被曝リスクは誇張され過ぎているとした上で、「われわれはどれほど愚かだったのか」と自戒する記事を掲載した。その理由と背景は何か。被曝リスクについて振れ過ぎた針を戻す試みが、海外から出てきている。(原子力取材班)



「われわれは愚かだった」と被曝リスクについての報道を反省するウォールストリート・ジャーナルの記事

福島のタブーに挑む・その2被ばくデマ・風評被害の根絶

澤昭裕・2016年への提言(中篇)2015年12月27日 澤昭裕(国際環境経済研究所所長)

むしろ問題は、現地よりも福島県外の人々の放射線リスクに関する知識や情報レベルにある。いまだに福島県は「住める場所ではない」とか「逃げるべきだ」などと煽りを繰り返している「市民運動団体」が存在している。福島を救うような顔をしながら、実際には復興を妨げ、地元住民の心の傷に塩を塗りこむような活動を行っている勢力に屈することがあってはならない。これは原子力推進か反対かは別次元であり、人間としての品格(integrity)の問題として捉えられなければならない。

櫻井よしこ氏講演会の企画・開催 (H27.12.20)

■東日本大震災と福島第一原発事故からの復興に向け、福島の双葉地区の将来を考える講演会を企画し、福島県広野町で開催。(講師は、ジャーナリストの櫻井よしこさん)

■福島大学特任研究員の開沼博氏をコーディネーターとし、復興への思いを語り合う。

いまこそ双葉がひとつになるとき！

～歴史をつくるのは君たちだ～

歴史を変えることはできないが、
未来をつくることはできます。

30年後の故郷に向けて

双葉郡住民と
支えてくださる方々と共に

将来の双葉郡像を話し合い
住民主導による
双葉郡復興再生へ向けて
歩んでいきましょう！



パネリスト
櫻井
よしこ
氏



コーディネーター
開沼
博
氏



櫻井よしこ氏講演会 パネルディスカッション

パネルディスカッション
『～未来をつくるのは俺たちだ～』

- 櫻井 よしこ氏 - 国家基本問題研究所理事長 -
- 遠藤 秀文氏 - (株)ふたば代表取締役 -
- 黒川 進氏 - (公社)日本青年会議所 2012年度 復興支援委員会委員長 -
- 原 裕氏 - 前田建設工業(株)東北支店環境省関連工事統括所長 -

コーディネーター
福島大学特任研究員
開沼 博氏



平成27年
12月20日(日)
広野町中央体育館

■開場 13:30 ※17:00
■開始 14:00 終了予定
※事前申込み 不要

◆問合せ先→ E-mail: office@happyroad.net
携 帯:080-6014-4372 事務局

主催：NPO法人 ハッピーロードネット
後援：双葉地方町村会・(一社)相馬青年会議所・(一社)原町青年会議所・
(一社)浪江青年会議所・(一社)高田青年会議所・(公社)いわき青年会議所

安倍総理に双葉、双葉翔陽高生が要望

2020年東京五輪の聖火リレーの本県での実施を要望するため、安倍首相（中央）を表敬訪問した双葉翔陽高（左側）と双葉高（右側）の生徒たち



来年3月末で休校となる双葉高と双葉翔陽高の3年生計18人は4日、首相官邸で安倍晋三首相に対し、2020年東京五輪・パラリンピックの聖火リレーを県内の国道6号で実施してほしいと要望した。安倍首相は「世界に向かって復興を示すことができるように頑張りたい」と前向きに応じた。

聖火リレー「国道6号で」



首相官邸で安倍首相と記念写真に納まる双葉高と双葉翔陽高の生徒たち

安倍晋三首相は4日、東京五輪・パラリンピックの聖火リレーで県内の六号国道を活用する意向を示した。同日の双葉、双葉翔陽高生の要望に応えた。安倍首相は「（六号国道を）聖火ランナーが走ることで福島の復興を示せる。実現できるように頑張りたい」と述べた。

両校の生徒十八人が

6号国道で東京五輪聖火リレー 首相「実現したい」

双葉、双葉翔陽高生 要望に

首相官邸で安倍首相と面会した。生徒は六号国道での桜の植樹活動に取り組んでいることや双葉郡のサテライト五校が平成二十九年年度から休校になる状況を説明した。双葉高の菊池歩実さん（三年）、双葉翔陽高の山田勇樹さん（同）が「聖火リレーは風評払拭（ふっしょく）につながる。安心して走れるように除染を進めてほしい」と要望した。

生徒らは馳浩文部科学相と遠藤利明五輪担当

首相に双葉、双葉翔陽高生が要望

官邸では、双葉高を代表して菊池歩実さん（17）が「聖火リレーの実施で福島県のイメージ改善につながる。実施が決まれば除染を進める方針も出てくると思う」と提案。双葉翔陽高を代表して山田勇樹さん（17）が「復興のお手伝いの一つとして国道6号で植樹などに取り組んでいる。私たちも聖火ランナーとして走りたい」と述べた。

両校を代表し、双葉高の及川彰大さん（17）が安倍首相に要望書を手渡した。安倍首相は「頑張ってるサテライト校で学んできた皆さんは胸を張って、締めくくりに卒業生になってほしい」と激励した。

両校の生徒はNPO法人ハッピーロードネットと連携、国道6号の植樹や清掃に取り組んでいる。このほか馳浩文部科学相と遠藤利明五輪担当

▲河北新報 平成28年4月5日(火)

学相、遠藤利明五輪相にも要望した。聖火リレーについて、東京五輪・パラリンピック組織委員会の森喜朗会長も浜通りを縦断する考えを示している。

▲福島民報
平成28年4月5日(火)



「日本・ベラルーシ友好訪問団2016」

福島県浜通り班 報告(簡易版)

2016年7月20日～8月4日



ミンスク州立小児病院での甲状腺検査



ノボチャドフ社長

ゲーム・ストリーム社表敬訪問

国立図書館見学



ネスビシ城見学



ミール城訪問

観光プログラム



ズブリョクでの活動



宿泊施設前で集合写真



正門前で集合写真
(施設内ツアー)



入り口の看板に
我々の写真が設置



男子サッカー交流戦
のため女子が応援
旗を作成



文化交流

習字
伝統衣装
ダンス
など



テレビ取材を
受ける



開始のお祭りで
カチューシャを披露



カーニバルでは
アリーバを披露



友好の夕べでは未来へ
つなぐメッセージを披露

ゴメリ州での活動



チェルノブイリ原発事故を対応した著名な方々からの講義・質疑応答



ゴメリ州執行委員会リュドミラさん
放射線学研究所 アヴェリンさんと
集合写真

ここでも
取材を
受ける



ブラレスカ保養施設での交流

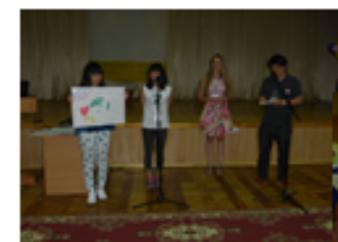


未来へつなぐ
メッセージを
披露

生徒間
交流



長距離移動での
休憩時間の様子



地球環境保護に
関する意見交換会



ホイニキ地区での活動



現地生徒との集合写真

ストーレリチオ村の学
校で放射線教育交流

対抗
障害物
リレー



教育長 学校長
との写真



未来へつなぐ
メッセージを
披露



意見交換会
生徒間交流



ポーシェエ放射線環境
保護区(警戒区域)



ホイニキ市の看板



モニタリングポスト
と事故の石碑



ホイニキ
地区
の看板



ホイニキ地区
博物館見学
(チェルノブイリ
事故関連)



子供の地域社会活動の参画に際して大事なこと

①子供たちの自主性を尊重する。

- ・子供たちの意見を取り入れ、自分から参加する意欲を認め、また、自主性を引き出していく。

②無理をしない。

- ・子供たちは、学校生活やクラブ活動などそれぞれの生活がある。参加できるときに参加してもらい、長く続けることが大事。

③活動成果(満足感)を求める。

- ・子供は欲望のかたまりみたいなもの、遊びの中からも何かを得る。
- ・活動して結果や成果を出し、形にして残すこと。満足度の向上を図る。

④大人がやってみせる。

- ・子供はよく見ている。地域の大人(親)が何をやっているのかを。
- ・口先だけではダメ、一緒に取り組むことが良い見本になる。

◇「継続」することの難しさ、大変さ、大切さ

→「誠実な活動」と「周困への理解促進活動」により克服



私たちは、愛するふるさとの復興を願う子供たちに、元気と希望を与え、福島浜通りの復興と活性化を目指します。



<http://happyroad.net/>



@hamakaidosakura

